

序

去る昭和三十二年十二月「教育実践の記録」を募集いたしましたところ多数の実践記録がよせられ三十三年二月には「教育実践の記録集」（才一集）が刊行されましたが、これは種々の都合により七編しか収録できませんでした。そこで今回は前回収録できなかった実践記録を集めて、諸先生方の御参考にしていただきたいと考え、「教育実践の記録集」（才二集）を刊行することになりました。

さて現在の私たちのことをふりかえりますと

私達現場にいる者は、いつも子供たちに接している関係上、いつでも何かしら問題を発見し、解決していかなければならない仕事にせまられておると思います。それこそ、教科指導のこと、生活指導のこと、道徳教育のこと、科学教育のことなどの大きな問題から、日常生活の見落とし勝ちな極めて小さな問題まで、いろいろと解決していかなければならぬ問題をかかえていることと思います。又、それらについて適切な指導もなされ、私たち教師も、大いに成長していることも又、事実であると思います。けれどもそれらについて何か文章表現したり一つにまとめられたというものは割合に少ないのではないかと思います。

自分の考えや自分の実践を何らかの形にまとめ、表現するという事は非常に大切なことであり、そうすること自体に価値のあることだと考えます。ある一つの問題について自分で考え、自分で実証することは無論大切で重要なことであるには違いませんが、それを又まとめ、文章表現するという事は、自分のとり上げた問題について、全体の教育の領域とどんな関係にありどんな位置をしめるのか、自分が問題としたことは適切であつたかどうか、実践した指導の方法に誤りはなかつたか、実践の結果を考えてもつと良い方法はないか、今後にはどんな問題が残されたか、それはどんな方法で解決されるか等々、その他いくつかの観点から反省するにはどうしても必要なことであると思います。さらにこれは、自分一人の反省のためばかりでなくできるだけ多くの人に、種々の立場から意見をのべていただき、次の実践への参考にしたりあるいは共同で検討したりして、一人で解決できないことをみんなで解決していこうとするには絶対に必要であり、このようなことをしてこそ、自分も又成長していくものであると思います。

おわりにこのような意味で応募なされた諸先生には私たちに貴重な参考資料、反省資料、又は問題点を提供して下さいましたことに対し深く敬意を表しお礼を申し上げますと共に、今後諸先生方が充分本書を利用下さい、又、深い研究実践がなされますようお願いして序文といたします。

昭和三十三年十月一日

足利市教育研究所長 南 木 宏